

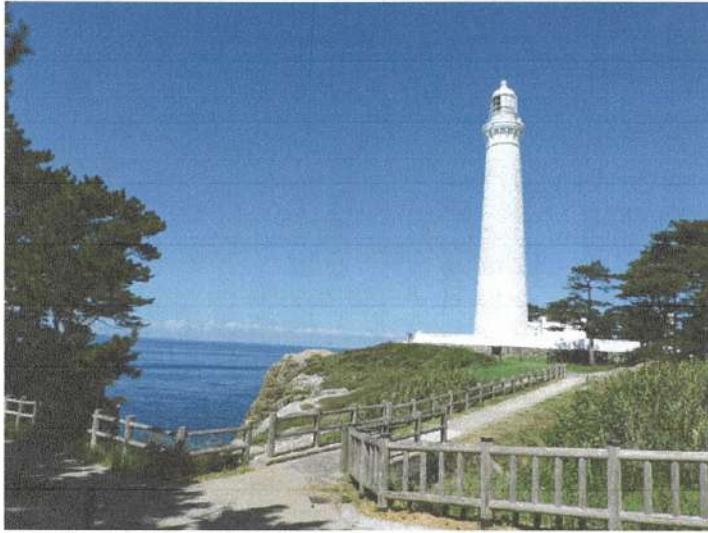
県北

びらくま

第105号 2024年12月1日（毎月1日発行）

中国5県絶景の旅①
ひのみさき

「出雲日御碕灯台」 「灯台からの響き」（宮本輝著）の舞台



マリンブルーの海が水平線まで広がっている

訪問したのが9月17日火曜日、でいるのだから、近隣県の名所。前日に「木次線ストロール⑪」の下久野駅を取材して、そのまま島根の出雲市街まで行って一泊。翌朝、車で日御碕を目指した。芸備線や木次線のレポートで県外に遠征するようになって、もっと先の景色を見てみたいと思うようになった。せっかく中国地方に住ん

正直、腰痛悪化の影響もある。木次線ストロールでの長距離の歩行に自信がない。今回の企画は、車で移動できる場所を選ぶことができる。来月号では、木次線ストロールを再開できればと願つてい

る。遠く左手に見えるのが大田市赤石トンネルを抜けた先に展望台があつたので立ち寄った。残暑が厳しく、気温は30度を軽く越え

ていている。路端やコンクリートに覆われていない斜面は、葛の葉が覆い尽くしている。この葛の葉を乾燥したものが漢方薬の葛根湯の原料なのだが、この旺盛な生命力を有効利用できないものか。このままで、厄介者のクズである。

階段を上がって展望台に立つと、マリンブルーの海が広がっている。夏の日本海に来る度に、山陰という呼び名に違和感を覚える。遠く左手に見えるのが大田市方面の海岸線で、その向こうに三瓶山の山影が望見できる。

出雲大社から15分ほどで日御碕神社に到着。後で調べると、日御碕灯台に直接行く道があるようだが、日御碕神社から日御碕灯台まで歩くコースを選んだ。

日御碕神社は、「出雲國風土記」では「美佐伎社」と記されている。楼門をくぐって右手の小高い場所にある上の宮「神の宮」と、正面にある下の宮「日沉宮（ひしづみのみや）」の上下二社からなり、総称して「日御碕神社」と呼ばれている。上の宮には素盞鳴尊（スサノオノミコト）、下の宮には天照大御神（アマテラスオオミカミ）が祀られている。厄除けや縁結びにご利益あり！

鮮やかな朱色が目立つ建物は、細部にまで様々な彫刻や装飾が施されていて、さながら竜宮城のような佇まいだ。両宮に参拝して、

発行：どら書房
〒727-0012
庄原市中本町 2-1-10

誌面デザイン:ROUTE183
協賛：九日市愛好会